

# 社会保障に重要な “ストーリー”

鎌田 繁則 教授

Prof. Kamata Shigenori

## 都市と社会保障

3年前期/選択科目・専門部門（財政・行政科目群）

### 社会保障の意味と仕組みを学ぶ

— 「都市と社会保障」は、どんな講義ですか？

私たちの生活を守ってくれる社会保障制度。社会保障制度とは、社会保険や社会福祉など複雑な制度の集合体です。この講義では、制度の内容や仕組みを知ること大切ですが、それらの暗記は最小限に留め、「なぜこのような仕組みになっているのか」「どんな理由でこの制度が存在しているのか」といった**社会保障の考え方を学んでほしい**と考えています。「なぜ国がこの制度を設けているのか？」「何が必要で何が必要でないのか」を、社会保障の歴史や、これまでの制度の成功例・失敗例を紹介する中で知り深めることのできる講義にしたいですね。

— 学生が興味を持っているのはどんな点ですか？

一部の社会保障制度は、メディアでもよく取り上げられています。マスコミの力は強いですから、学生の中には「社会保障はかわいそうな人たちのためのもの」といった先入観を持つ者もいますし、「年金制度は破綻するの？」「将来、損するって本当？」という声も耳にします。講義の中では、そういった偏った考えや誤解を解きつつ、フラットな視点でいろいろな制度やその仕組みについて説明するようにしています。

#### 鎌田先生の必需品

must have!

#### デジタルペーパーに“書いて考える”

「パソコンよりも、手書きの方がいいアイデアが浮かぶから」と鎌田先生。最近ではペーパーレスで長期保存できるよう、手書きスタイルのままデジタルペーパーに移行しています。



### 人々の安心を、ストーリーで共感

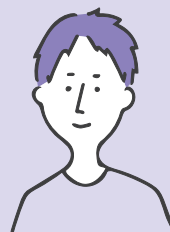
— 社会保障制度を学ぶにあたって、大切なことは？

働き方や生き方が多様化していく現代において、昔のようにひとつの制度だけで多くの人をカバーすることが困難になってきています。私が大切にしているのは、その人それぞれの「ストーリー」。実は、ごくありふれた普通の人の共感を得るということはとても難しく、これまでの学問が苦手としてきたことです。社会保障が扱う「人々の安心」というテーマは、そうした客観性では分析できません。大切なことは、**それぞれのストーリーに共感してもらうこと**。現在私は現象学という哲学の一分野と既存の経済学を組み合わせた学問の構築を目指し、人々の主観の役割を重視した社会保障改革の方法を模索しています。

— 学生には、どのような学生生活を過ごしてほしいですか？

どんなことでも良いので、**学生のうちに多くの体験を積んでほしい**です。スマホひとつで経験した気分になってしまう世の中ですが、興味があることにはどんどん挑戦し、実体験を積み重ねることが、未来の自分の厚みになると思います。経験してみないと、好きなことも嫌いなこともわかりません。ぜひ自分の経験の引き出しを増やして、興味を深めてほしいと願っています。

#### 学生の声



駒木 幹也 さん（3年生）

鎌田先生の話し方は優しく聞き取りやすいので、内容がずっと頭に入ってきます。少子高齢化が進む今、年金制度は一見損をするように思えますが、「マクロ経済スライド」という制度を知り、イメージが変わりました。とても興味深く、この分野をもっと学びたいと感じたきっかけでした。

